

2024

同友しずおか 1



VOL.542

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」

賀正



私の逸品
(株)キラガ
 宝石業の新しい挑戦

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。

中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会 3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

 静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130 
〒420-0857 静岡市東区藤原町3 静岡三建ビル6F FAX/054-255-7620 E-mail/doyu@shizodoyu.gr.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きやうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

※12月の新入会員の皆さんは2月号でご紹介します。



代表理事 松葉秀介

(松葉倉庫(株) 代表取締役社長)

「磨け・輝け・未来を決めるのは自分！」

新年明けましておめでとうございます。旧年中は県同友会活動に多大なるご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございました。

県同友会の令和5年度スローガンは「入ってよかった、続けてよかった、誘ってよかった、企業も地域も良くなった」ですが、皆さんはこの4つの言葉を実感出来ているでしょうか？願いは叶っているでしょうか？令和6年度の干支は「龍」です。水晶の玉を持った龍を思い浮かべ方も多いかと思いますが、あの玉を「如意宝珠(にようほうじゆ)」と言い、サンスクリット語で「意のままに様々な願いをかなえる宝の珠」という意味です。

もともとは龍が持っていたものではなく、インドのヘビ神が持っていたもので、それが古代中国に伝えられたときに、ヘビ神を龍と訳した事によって、龍と如意宝珠が結びついたとされています。地域によっては如意宝珠を持っていない龍も多くありますが、宝珠の有・無や、宝珠が何で出来ているかは関係なく、「気の力」とか「強い想い」とか、そうした超自然的なものを具現化したものが如意宝珠なのではないかとされています。

私たち中小企業を取り巻く経営環境を見回してみると、益々物事の変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が高まり、変化のスピードはより早くなり、直面する課題も更に多様になっています。個々に案ずるだけ、想うだけ、動くだけでは、到底、意のままに願いを叶えることは出来な

いでしょう。同友会は、小さくても強い想いの集合体です。沢山の手でお互いの願いや課題を支えあい、磨きあい、勇気をもってチャレンジの連鎖を生み出してゆきましょう。磨け、輝け、未来を決めるのは自分！50年目の節目の年度、仲間と共にALL静岡の強い絆で学びあい、輝く未来をその手で力強く掴みましょう。今年も一年、よろしくお願ひします。



会長 遠藤一秀

(遠藤科学(株) 取締役会長)

「30年ぶりの・・・」と言われても

明けましておめでとうございます。ウィズコロナの生活が定着し、社会経済活動がほぼコロナ前の状態まで回復して迎えた年始です。

一昨年来「30年ぶりの」との表現を多く耳にしました。30年ぶりの物価高騰、30年ぶりの株価3万円突破、30年ぶりの大幅賃上げ、30年ぶりの企業業績等々・・・、30年ぶりとは「失われた30年」の前、即ち平成バブル期以来という意味です。高齢者の私ですらやっと取締役となり経営陣の末席に就いたばかりの時期でしたから、多くの会員さんにとっては全く未経験の昔話でしょう。その後2000年代には小泉・竹中路線による規制改革、2010年代のアベノミクスと経済回復への施策が続きましたが、リーマンショック、コロナショックにより、失われた10年は、20年、30年と長引いてしまいました。

現在進行中のデフレ脱却も、歴史的な円安・ウクライナ紛争による資源高騰・供給流通体制の混乱等々によるもので、日本経済が自律的な経済成長軌道に戻ったからではありません。しかし30年ぶりに日本経済がデフレから脱却しつつあることは確かです。30年ぶりに「新しい資本主義」を確立し、豊かで安定した経済体制を築くチャンスでもあります。

目指す方向は、30年前の経済成長・生産性向上追求の路線への回帰ではなく、気候変動など環境問題に配慮し、人々の多様な個性と人格を尊重した社会を実現し、格差を拡大させる競争より互恵平等の協調を重視するものでなくてはなりません。その担い手は、バブル期へのノスタルジーを捨てきれない団塊の世代ではなく、次世代・次々世代の企業家・経営者諸君です。諸君が、日本経済を長い低迷期から脱却させ、地元静岡県の地盤低下をくいとめて豊かな地域づくりを推進してくれることを期待して、年頭所感とします。



宝石業の新しい挑戦

(株)キラガ (沼津支部)

常務取締役 太田 喜貴氏



左から齊藤周氏、太田喜貴氏



長泉町にある工房の前で



開放的なお庭



豊かな自然に囲まれた工房

駿東郡長泉町にある、富士山麓の豊かな自然に囲まれた静かな高級住宅街の一角で宝石業を営む(株)キラガの太田喜貴氏を訪ねました。あたたかみのある工房の外観からは、宝石店でありながら気軽に入りやすい雰囲気を感じます。

IT業界から宝石業へ

太田氏は大学卒業後、大手商社でIT関係のプロジェクトマネジメントに携わります。海外スタートアップ企業への出資、プロジェクトなど、世界を股にかけて活躍していました。約10年が経った頃、コロナ禍で実家の宝石業の業績が落ち込んだことを受け、2021年9月に家業への転職を決意したそうです。

これまでとは全く違う業界になるため、宝石と卸業の仕組みの勉強を急ピッチで行い、手探りで営業をスタートしますが、うまく行かない日々を過ごします。そんな中、もともとお店のお客様だった同友会メンバーの紹介で、同友会に入会します。

ライブコマースで急成長

同友会での学びを始めつつ、業績の立て直しに向け、在庫管理の改善、小売先の新規開拓、SNSのスタートなど、次々に新たな取り組みを進めていきました。同友会では入会3ヵ月後に早くも支部の副委員長に抜擢され、半年後には例会での報告も任せられるなど、周囲の期待を受けて密度の濃い時間を過ごして

てきました。

会社のSNSでは、2022年11月に新たに東京の会社とコラボしたことをきっかけにインスタグラムのライブコマースをスタート。ライブコマースのノウハウを習得し、全国の一般の方への販売が急成長しているといえます。現在は海外向けの販売も始めており、新たな販売ルートの開拓にも挑戦しているそうです。このような取り組みの効果により、全体の売上も昨年の30%増を見込んでいます。

自社でデザインから製造まで

同社の強みとして、自社で宝石の加工やデザイン、製造まで出来る技術力があります。そのため1点ものの商品が多く、多品種少量を心掛けた製造を行っているそうです。また、同社の

店舗内にはショーケースがなく、お客様が手軽に試着しながら似合う宝石を探すことができるのも強みです。リングをペンダントにしたい等の相談にも対応しています。太田氏はさらに「石の選別やデザインについても自身のスキルを磨いていきたい」と語ります。これからの益々の活躍に目が離せません。

表紙の「私の逸品」は(株)キラガ一押しの高級ピンクダイヤモンドとパールバトルマリンです。ご興味のある方は、ぜひお店で実物をご覧ください。

取材・執筆・齊藤周氏
(沼津三菱自動車販売(株) 沼津支部)
取材・高野康一氏
(株)高野部品・沼津支部

(株)キラガ

〒411-0931 駿東郡長泉町東野608-121

TEL : 055-980-1888

URL : <https://rings-kiraga.com/>

設立 2009年

社員数 7名

入会年月 2021年10月

事業内容 宝飾品の製造・加工・卸・小売

会員訪問記

つながりと仲間の力が生み出す成長と発展

(株)モスク・クリエイション
専務取締役 片野貴一郎氏 (御殿場支部)



富士の麓に会社を構える片野氏

新たな価値を生み出す会社

グラフィック・WEBデザイン制作や写真・映像制作などを行う(株)モスク・クリエイションは、富士の麓の裾野市に位置し、片野氏が専務取締役を務めています。静

岡支社は木を基調としたドームハウスで、オシャレな雰囲気が漂います。昨年で創立30周年を迎えました。片野氏は17年前に営業として入社し、お客様の要望と制作サイドの調整を行いながら、様々なプロジェクトに携わっています。



これからの目標を語る片野氏



木の温かみがある社内

(株)モスク・クリエイション
〒410-1126 裾野市桃園14-1
TEL : 055-995-0566
URL : <https://www.mosk.co.jp/>
創業 1992年
設立 1997年
社員数 19名
入会年月 2009年4月
事業内容 グラフィック・WEBデザイン制作・写真・映像撮影制作など

仲間の力を受けての成長
同友会への入会のきっかけは、元々社長が参加していましたが、2009年にバトンを受け継いで入会したことです。最初は御殿場での人間関係の少なさと立場の違いに戸惑いを感じ、時折同友会への参加意義に疑問を抱くこともありました。しかし、御殿場メンバーからの温かいサポートや、ある日の社長の問いかけにより、同友会参加の目的が不明瞭であることに気づいた片野氏。その後は、メンバーとの対話を通じて目的を

現在は東京の赤坂に本社、北海道の留萌支社、鹿児島島の離島の徳之島支社と北から南の広範囲に拠点を構え、幅広く様々な地域特性を活かしながら、新たな価値を模索しています。仕事においても、地域は違えど、人と人との繋がりを大事にした対応を心がけています。また、お客様の要望を即座に反映させつつ、制作サイドと協力して成果を上げることが最も楽しい瞬間だと話します。

地域単位での交流を大切に、自社と地域の発展へ
今後は、会社の運営においては、各地域の特色を理解し、地域単位での交流を促進して地域の問題解決に貢献したいと考えています。地域格差を学びの機会と捉え、同友会を通じて得た知識や経験を活かし、さらなる発展を遂げるために地元地域と連携を深めることが目標です。御殿場支部においては、若手の意欲的なメンバーから刺激

明確化し、同友会で得られる多様なアドバイスや意見が新たな発見となり、仕事においても会社の経営においても多くを救われました。これも異業種の集まりで、様々な立場、キャリアを持つ仲間の力があつてのことだと片野氏は言います。このような経験が同友会への関わりを強くする気持ちへと変化し、会社経営の悩みを解決に導く貴重な時間として捉えるようになりました。そのような活動が実り、現在、御殿場支部で副支部長を務めています。



木を基調としたドームハウス型の社屋

をもらいながら、地域の経営者が活躍できる環境を築き、支部の発展に寄与したいと考えているそうです。このような地域との連携が企業としての成長と同友会の発展に繋がるのではと期待がふくらむお話でした。

取材・執筆：鈴木翔也氏
(株)トップ 御殿場営業所・御殿場支部
石山美歌氏
①ワンジ ジャージャーラ・御殿場支部

フットワーク良く、お客様に感謝される仕事をしよう！

社会保険労務士法人 さかもと事務所
社会保険労務士 ファイナンシャルプランナー
坂本 祥彰氏（志太支部）



デザインされた事務所外観

独立開業まで

2023年5月に同友会に入会した社会保険労務士法人さかもと事務所の坂本祥彰氏を訪問しました。さかもと事務所は藤枝市高柳の交通量の多い道路沿いにあり、ひととき目立つデザインが印象的です。坂本氏はメーカーの営業として活躍している中で「資格を持ち将来を見据えた仕事をしたい」と一念発起、社会保険労務士の資格にチャレンジしたのが27歳のころ。大学入試よりも勉強したという時期を経て、29歳で社会保険労務士となります。30歳で社会保険労務士事務所を併設する税理士事務所に転職。転職してから7、8年経ったところ独立開業の想いが湧き出て、所長に相談したところ「独立するのならクライアントの多くは君についていくだろう。こちらもそのつもりで準備するから、クライアントをしっかりとフォローするように」と言葉をいただいたそうです。坂本氏の働きぶりが垣間見えるストーリーだと感じました。38歳で独立開業。自宅事務所からスタートし、藤枝駅南の賃貸事務所を経て、2022年8月に自社



日当たりの良い打ち合わせ室での取材

物件の現事務所を新築して移転しました。

スタッフとともに

開業当初からクライアントに恵まれていましたが、以前勤務していた税理士事務所との関係も良好で、今でもクライアントを紹介し合う関係が継続しているとのこと。人のご縁を大切にできた坂本氏。同友会に入会するきっかけも人のご縁からたそうです。「この事務所の土地を探して、建築施工してくれた友人の工務店の社長から『是非紹介したい人がいる』と言われてお会いしたのが塚本和成氏（岡塚本商店・志太支部）でした。すぐに意気投合し同友会に誘われ入会。まだ入会して間もないので、まずは自分を覚えてもらうことが第一です。事務所のモットーは『フットワーク良く、お客様に感謝される仕事をしよう』ですが、同友会でモットーをより具体的に経営理念を作り上げたい」と語ります。また、志太支部会員の望月運輸（株）鈴木雅芳氏とかつて同じ税理士事務所働いていたという縁もあり、鈴木氏と同じ支部委員会「役立つ委員会」に所属したといいます。

これからの事業展開

「お世話になった修行時代の事務所が医療・介護・運送業の労使トラブルの解決に強い事務所だったため、自分もその分野に強みを発揮している。現在は、スタッフの中に4名の社会保険労務士資格合格者がいます。これは自分でも信じられないほど人材に恵まれている。年金事務所に勤務していたスタッフもいるため障害年金など、

自分の専門分野ではない仕事も広がっています」と坂本氏。雇用などの労使トラブルの予防、事故が発生したあとの救済など、すべての方面からお客様をフットワーク良くサポートしたいと語ります。同友会での活躍も含め、人のご縁を大切にされる坂本氏のことから大きな期待を抱いた取材となりました。



左から大池支部長、坂本氏、村松氏、宮本氏

社会保険労務士法人 さかもと事務所

〒426-0041 藤枝市高柳1938-2

TEL : 054-625-7310

URL : <https://sakamoto-sr.jp/>

創業 2014年

社員数 6名（パート3名）

入会年月 2023年5月

事業内容 社会保険労務士事務所

取材・記事：村松繁氏
（アイマーク（株）志太支部）

取材：大池盛一郎氏
（南カリーライフ静岡・志太支部）

宮本浩氏

（大栄工業（株）志太支部）

女性部第8回ダイヤモンドカレッジ

私の経営を語る&DXセミナー

県女性部は12月8日（金）ZOOMにて、第8回ダイヤモンドカレッジ（DC）を開催しました。報告者には、ママによるお仕事代行（テレアポ・事務作業・デザイン）等の（株）ままよろ代表取締役の石光氏（静岡支部）が登場しました。石氏からは自身の生い立ち、経験を赤裸々に伝え、創業の経緯、現在の取り組み、経営指針を創る会で得た学びや気づき、将来ビジョンを語りました。また、同社のDX化の取り組みもツールを交え丁寧に伝えました。バズセッションは「何のために経営していますか？」をテーマに語りあいました。参加者はゲスト4名を含め全体で約20名強でした。女性部DCでは女性経営者や後継者を積極的に受け入れています。次回は4月、（株）岡カッター製作所（松岡慶子氏）への企業見学を計画しています。女性会員&女性経営者・後継者の皆様ご参加お待ちしております。

志太支部12月特別学習会 自分の会社を将来どうする？ 自社の事業承継問題

12月12日（火）、県同友会が加盟している静岡県事業引継ネットワークの中心的役割を担う静岡県事業承継・引継ぎ支援センター統括責任者・清水至亮氏を講師にお招



承継問題を語る清水至亮氏



主旨説明をする寺島条例推進特別委員長

きし、事業承継問題の学習会を行いました。「自分の会社を将来どうする？」をテーマに28名（会員23名）が参加しました。清水氏は「円滑な事業承継の実現には、後継者の有無に関わらず早目の対応が重要」と呼び掛け、具体的な事例や承継の基礎知識を伝えました。中小企業が生き残る事業承継は大きく3つ（親族内承継、従業員承継、第三者承継）あります。それぞれの承継の事例を交えつつ参加者に説明しました。

「事業承継の悩みや課題はなかなか人に言いにくいこともあります。承継に関する悩みが漠然でも構いません。子どもに譲りたいが上手く話ができなくて後継者がいないで困っている。廃業すると常連さんに悪くて、など、どんなことでもセンターに相談して頂いて構いません」と参加者に伝えました。また、各支部にて事業承継の学習会を検討される場合は同センターをご活用ください（講師派遣は無料です）。詳細は事務局までお尋ねください。

静岡大学連携講座

第9講

11月29日（水）

本当に思うことそれだけが未来を拓く

講師：前原毅氏

（ダイヤモンドラス（株）・御殿場支部）



前原 毅氏

御殿場市で空調・給排水設備の設計・施工・メンテナンスなどを営むダイヤモンドラス（株）。コロ

ナ禍で売上の7割を占めていたアウトレットの工事がストップ、危機に直面します。そこからB to Cへの挑戦が始まります。経済を立て直すには「本当に思うこと」、そして利益も出して継続し続けることが大切と感じた前原氏、どうしたら社会に貢献できるかを考え、導き出したのが飲食業でした。高齢化が進む中、孤食問題が深刻化しているのを受け「すべての人の家でありたい」と、古民家をリノベーションして子どもからお年寄りまで食べやすいうどん店をオープン。最後に学生に「ものごとを大局で見てください。また、思考を止めずに、本質は何かを考えてほしい」とメッセージを伝えました。

第10講

12月6日（水）

日本一の沼津ひものを、世界へ、未来へ

講師：小松寛氏

（有ヤマカ水産・沼津支部）



小松 寛氏

1912年に沼津で創業し、干物の製造・販売を手掛ける有ヤマカ水産。小松氏は大学卒業後、築地市場で4年働き、ヤマカ水産へ入

第11講

12月13日（水）

地域の未来を考えよう

講師：塚本和成氏

（有塚本商店・志太支部）



塚本 和成氏

鳥田市で廃棄物処理業を営む、30期目を迎えた有塚本商店。創業者の父から事業承継した塚本氏ですが、幼少期は家業のことを良く思っていませんでした。事業を継ぐきっかけは大学時代の母からの電話でした。家業に戻ったあと、経営の勉強のために同友会に入会。同友会では若い時から役を経験し、様々な交流から学びを得ました。また、経営指針書を作成する過程で「廃棄物処理ほど地域や社会に貢献できる仕事はない」と自社の意義を再確認し、事業に誇りを持つようになりました。自身の経験から「将来への不安を持つ人もいるかと思いますが、どんな仕事にも意義があり、魅力があります。会社の理念や経営者の思いに共感できるかを大切にしてください」と学生にメッセージを送りました。



静岡県中小企業家同友会 祝50周年記念事業
NEXT50フォーラム～誰ひとり取り残さない～

2024年11月28日(木)ホテルグランヒルズ静岡にて開催！！
今からぜひご予約ください！

1月・2月

DOYU CALENDAR

1月16日(火)～2月15日(木)

1月 16日(火)	【中部】 スコップとビールの会 (県組織増強委員会主催) (18:00 富士市交流プラザ)
18日(木)	富士新年例会 (19:00 未定) 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)
19日(金)	県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
20日(土)	沼津新年例会 (18:00 FDIバンケットホール)
22日(月)	【西部】 スコップとビールの会 (県組織増強委員会主催) (18:00 菊川市役所庁舎東館「プラザきくる」) 三島賀詞交歓会 (未定 割烹 登喜和)
23日(火)	経営環境分析 実践講座 (16:00 同友会事務局&ZOOM)
24日(水)	県例会企画委員会主催 グループ長研修 (19:00 静岡市産学交流センターペガサート&ZOOM) 共育委員会新年会 (18:45 静岡おでんの三河屋) 【東部】 スコップとビールの会 (県組織増強委員会主催) (18:00 プラサヴェルデ)
25日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
26日(金)	イントロセミナー (19:00 同友会事務局&ZOOM)

30日(火)	県例会企画委員会 (18:00 ZOOM) 県経営労働委員会 (経営デザインシートの作成勉強会) (19:00 同友会事務局)
2月 1日(木)	正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
2日(金)	青年部東海合同例会 (13:30 ホテルグランヒルズ静岡)
3日(土)	浜松支部50周年記念祝賀会 (14:00 グランドホテル浜松)
6日(火)	富士宮例会 (19:00 志ほ川バイパス店&ZOOM)
8日(木)	総務財務委員会 (16:00 同友会事務局&ZOOM)
13日(火)	静岡例会 (19:00 静岡市産学交流センターペガサート)
14日(水)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア)
15日(木)	富士例会 (19:00 調整中) 榛南例会 (19:00 牧之原市商工会) 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)



《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



県障がい者問題委員会
クリスマスバザー

社会福祉のため会員企業から集めた商材を販売

障がい者問題委員会では障がい者理解を広めるべく活動しており、その一環として2003年より毎年チャリティーバザーを行っています。会員から集めた商材を販売し売上金を寄付することで、誰でも社会福祉に携わることのできる機会となっています。今年も12月17日(日)に、静岡市ボラントピア団体連絡協議会主催の「いのちほかほか街かどクリスマス」に委員会として出店。静岡駅の青葉シンボルロードにて、会員より提供いただいた食品・雑貨・洋服などの商材を販売しました。当日は県障がい者問題委員や沼津支部福祉委員会のメンバーが設営、お客様と直接会話を交わしながら商材を販売しました。寒い中でも、会場は多くのお客様でにぎわい、笑顔あふれるあたたかい雰囲気にもたたまりました。バザーの売上金90,600円は、社会福祉に関わる団体へ寄付いたします。寄付の詳細につきましては追って皆様にご案内します。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

